

(別記様式)

令和6年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 スクールミッション「アグリサイエンス科・みらいクリエイト科を設置する学舎制高校として、幅広い知識と農業生産・食品加工の専門的な知識・技能を高め、新たな価値を創造し社会に貢献できる人材を育成する。」を教育活動の中に明確に位置づけ、その具現化を図る。	1 成果 (1) 広報活動や保護者連絡について、ICTを活用し全教職員で取り組むことができた。 (2) 授業改善に向けて、教員相互の授業参観を実施し手法の共有を行った。 (3) 農業クラブの大会に多数参加し、入賞を果たした。 (4) 生徒の自主的な活動の場をつくり、行事を成功させ、自己有用感を高められた。 (5) 計画的に進路HRを実施し、希望進路の実現に向けて寄り添った指導を行った。 (6) 特別支援が必要な生徒について個別の指導計画を作成し、情報を共有できた。	1 グラデュエーション・ポリシーの具現化に向けた取組の計画的な推進 (1) 「はぐくみたい力」を明らかにした指導と評価 (2) 「課題研究」と「みらい探究」の充実 (3) 自主的に学びに向かわせる授業改善
2 豊かな人間性と社会人基礎力、丹後を愛しその発展に貢献しようとする姿勢、未来を切り拓く創造力を育成する。		2 学舎制を活かした教育活動の充実 (1) 合同部活動・遠隔授業の充実 (2) 農商連携の一層の推進 (3) 合同行事等の検討・実施
3 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。	2 課題 (1) GIGAスクール構想のハード面の整備は進んだが、ソフト面の研究が必要である。 (2) 授業規律の確立と、生徒の学習意欲を向上させる授業改善を進める必要がある。 (3) 農商連携だけでなく、学舎間連携による効果的な学習活動を充実させる。 (4) 働き方改革を進めるために、行事の精選や業務の平準化を進める。 (5) 希望進路の実現のために、早期からの情報提供や学習計画を立てる必要がある。 (6) 生徒募集に向けて、本学舎の強みや学習内容が伝わる取組を実施する。	3 自己有用感の醸成 (1) 生徒会を中心とした自治活動の充実 (2) 傾聴を軸とした生徒理解と承認 (3) 地域との連携による社会貢献
		4 広報活動の充実と保護者連携の推進 (1) 本学舎の特色・魅力の発信 (2) 中高連携による体験活動の充実 (3) 保護者との情報共有

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学舎間での生徒合同による教育活動の充実	・学舎間の教員が定期的に情報交換をし、生徒合同の教育活動を計画・実施する。 ・農商連携をはじめ、進路行事やボランティア活動などにおいても交流を行う。 【生徒合同による教育活動：10回以上】	A	B	・芸術鑑賞、修学旅行、美術書道展を合同で行うことができた。 ・農商連携として年間を通し10回以上の連携を行った。課題研究班が主な連携となった。
		・網野学舎と連携し計画的に遠隔合同授業を実施する。 ・学舎間連携や小規模校の活性化に向けた遠隔システム活用の在り方等について研究を行う。 【遠隔担当者会議の実施 4回／年】	B		・遠隔授業に関する2校4学舎での会議を実施し、普段の授業での活用状況や工夫、学舎間連携での遠隔システムの活用方法について交流した。 ・今年度は3回実施（3月実施予定を含む）。
	安心・安全・快適な教育環境の整備	・日常の安全点検により危険個所の早期発見・改修に努める。 ・各学科の特色ある教育活動を推進するため、海部 kitchen の改修や探究活動のための整備を行う。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度：85%以上】	A	B	・海部 kitchen の改修は3月までに施工できる予定。 ・学校評価アンケート【学校の施設・設備は、生徒が学校生活を送るのに十分なものである。】のうち、あてはまる・ややあてはまるの回答率 生徒：95%（60／63） 保護者：77%（41／53） 全体：87%（101／116）
	教職員の働き方改革の推進	・分掌ごとに業務を見直し、不要な業務のスクラップに取り組む。 ・他校や他業種で取り組む施策、好事例を参考に研究・活用を進める。 【衛生委員会での勤務時間状況で「減った」「少し減った」の回答：50%以上】	C		・衛生委員会での勤務時間状況で「減った」「少し減った」の回答：13%（8月） ・業務の平準化、削減を次年度以降も継続していく必要がある。 ・業務のスクラップは、行事の縮小なども含めてできる所まで進められている。

家庭・地域との連携	広報活動の充実によって本校の特色を周知する	・地域の方、中学生とその保護者に対して、適切な時期に学校の特色を発信し、効果的な広報活動を継続して行う。 【志願者数、昨年度比 1.2 倍】	B		・ホームページ、学校だよりについては教職員一丸となり、計画的に生徒の活動を発信することができた。 ・InstagramやYouTubeを活用し、生徒自身が中学生に向けて情報を発信するコンテンツを運営することができた。 ・志願者数の動向を見ると更に効果的な広報活動が必要である。 - 前期選抜出願者数昨年度比 0.8 倍
	地域連携による教育活動の充実	・様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域や大学・専門学校、福祉施設等との連携による活動を進める。 【年間の取組を 30 回以上実施】	A	A	・平田オリザ氏による演劇 W.S の実施、久美浜町内の社会人との交流会をした。 ・みらいクリエイト科は福知山公立大学の小山教授によるフィールドワーク、久美浜町内の自治会との交流会を実施した。 ・アグリサイエンス科は緑風マーケットの開催や課題研究において地域連携を進めることができた。 ・計 103 回の地域連携ができた。 - ボランティア活動：37 回 - みらいクリエイト科：8 回 - アグリサイエンス科：53 回 - 共通：5 回
	保護者等への確実な情報発信	・HP、学舎だより、マチコミ、Instagramを有効に活用する。 ・保護者の教育活動への理解を深める。 【学校評価アンケートで学校の様子がわかる：70%以上】	A		・学校評価アンケートの結果によると広報によって「学校の様子が分かる」と肯定的に答えた保護者は 91%で当初の目標は達成できた。
学習指導	授業規律の確立	・「時を守り、場を清め、礼を正す」をキーワードに授業規律と教室の整理整頓の指導を行う。 【生徒アンケート「授業規律」に対する回答平均 3.5 以上（4段階評価）】	B	B	・授業規律に関して全体的には大きな問題は無いが、授業に向かう姿勢が不十分な生徒が数名見られる。今後も粘り強く指導していくことが求められる。 - アンケート結果 3.7

個に応じた指導の充実	・互見授業により、「解かる授業」のための授業改善を行う。 ・ICT 機器、学校図書館、新聞等の活用、探究的手法の導入等の研究を行う。 【授業参観 1人2時間以上】 【生徒アンケート「授業が解かる」に対する回答平均 3.5 以上（4段階評価）】	B	B	・今年度も、校内研究授業週間の設定など、授業を見聞し授業改善の研鑽を積む機会を取ることができた。その結果か、「解かる授業」に対するアンケートの数値は目標を達成できた。 アンケート結果 3.5 ・授業参観（参観時間数／目標時間数） 79 時間／68 時間 ・生徒の学力の積み上げにはまだ課題が残る。
	・生徒個々の学力の応じた指導を行うとともに、検定試験を活用し、学習意欲を高める。 【漢字検定・英語検定・数学検定の受験者数のべ 60 人以上】 【生徒アンケートでの「力の伸びの実感」に対する回答平均 3.5 以上（4段階評価）】	C		・漢字検定、英語検定、数学検定の資格取得に向けた取り組みは大きく振るわなかった。次年度以降、呼びかけ方など方法を工夫していく必要がある。 検定受験者 15 名 ・生徒の「力の伸びの実感」に関しては、目標値に近い数値を達成できた。 アンケート結果 3.4
	・学習に課題を持つ生徒、前年度不認定科目を持つ生徒へ計画的にいていねいな指導を行う。 【学年末で不認定科目を抱える生徒の割合 10%以下】 【不認定科目の追認考查で年度内合格 100%】	B		・学年末考查に向けて、普段の教科指導だけでなく、考查前に基礎補充を実施するなど、学習に課題を持つ生徒への指導に取り組んだ。また、過年度不認定科目については、第2回追認考查まで粘り強い指導の結果、全科目の認定につながった。 2学期不振科目を抱える生徒 16 名（17.6%） 追認考查全科目認定。
専門学科の特色に応じた学習活動の充実	・授業を大切にすることで、基礎的な専門知識や技術の習得を図る。 ・社会人講師を活用し専門知識や幅広い考え方を学ぶ 【関連資格取得生徒数：のべ 20 名以上】	A	A	・社会人講師を活用した授業や外部での農業実習を通し、専門知識や農業に関する考え方を学ぶことができた。 資格試験合格者 21 名

		・学校農業クラブ活動を活性化し、各種競技会・講習会に積極的に参加する。 【各種競技会入賞：4名以上】	A		・京都府大会や全国大会に参加し、優秀な成績をおさめることができた。 入賞者8名
生徒指導	安心・安全な学校生活のための規範意識の向上	・教職員の一貫した指導により社会的マナーや規範意識の向上を図る。 【学校評価アンケート「生徒の実態に応じた指導 80%以上」】	C	B	・身だしなみ点検、朝・昼の立ち番及び巡回指導、薬物乱用防止教室等実施してきた。全体的には落ち着いているが、身だしなみ（頭髪・服装）については、最後まで改善ができないままの中途半端な指導になっている。 ・学校評価アンケート結果 生徒に応じた指導（あてはまる、ややあてはまる） 保護者 77% 生徒 93%
		・生徒間の困りごとに対して、早期発見・早期対応できるように教員間の連携を密にし、生徒の実態に迫る指導を行う。 【学校評価アンケート「学校生活への安心度 80%以上」】	A		・今週の振り返り（毎週）やいじめ調査アンケート（6月、11月）等を実施し、いじめ等の認知はなかった。 ・学校評価アンケート結果 学校生活への安心度（あてはまる、ややあてはまる） 保護者 84% 生徒 93%
	自己肯定感・自己有用感を高める	・生徒会活動を活性化させ、行事等を生徒主体で計画・運営できるようにサポートする。 【生徒会本部役員会 10回以上】	A	A	・生徒会では、学校行事（球技大会、学校祭）や生徒会独自の企画（「ありがとうの手紙」キャンペーン）を運営した。また、月に1回、有線放送の収録を行った。 生徒会役部役員会・・・前期（10回）後期（5回）
		地域と連携し、ボランティア活動の機会を創出し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。 【「ボランティア活動参加満足度」80%以上】	A		・京丹後市社会福祉協議会と連携して地域でのボランティア活動の機会を開拓し、生徒が参加した。 ・海部放課後児童クラブやかぶと山こども園への訪問、地元行事のボランティア活動に参加した。 参加日数 ボランティア部 130日 その他 86日 ・ボランティア活動参加満足度は大変満足 56.7%、満足 43.3%、不満 0.0%、大変不満 0.0%であった。

進路指導	希望進路の実現	・3年間を見据えた進路実現プラン「未来への架け橋」を学年部と進路指導部と関係各部で連携して、計画的に実行する。 【各学期の計画実施率 100%】 【学校評価アンケートでの進路指導に対する満足度 80%以上】	A		A	・「未来への架け橋」の計画に沿って、学年部と進路指導部と関係各部で連携しながら、進路行事や学習についてほぼ計画通りに実施できた。 ・学校評価アンケートの進路指導項目 保護者（十分良い、おおむね良い） 75% 生徒（あてはまる、ややあてはまる） 100%
		・進路希望調査や面談を通して得た情報を確実に共有して、目標達成のために必要な指導計画を立てる。（講習・対策講座計画、模擬試験受験、出願・受験指導等） 【進路検討会議各学年2回以上実施】 【チューター面談5回実施】	B			・生徒の進路希望や適性等について情報交換しながら指導の方向性を共有して進路指導を行った。 ・早期から進路に関する意識を持たせ、必要に応じて講習受講、模擬試験受験、職場体験参加など、進路に向き合う態度を身に付けさせる指導が必要である。 ・進路検討会議については、現段階で3年生1回、2年生1回実施。3学期に2年生1回、1年生1回実施する予定。（各学年とも1回程度の実施しかできなかった） ・チューター面談については、1学期に2回、2学期に2回実施。2月に5回目を実施予定。
健康安全指導	健康で安全な生活を営む力の育成	・保健だよりを活用し、季節や行事に応じた対策を身につけさせ、自ら健康管理ができる生徒を育成する。 【保健委員による健康に関するワンポイントアドバイスの実施 年10回】	A	A	A	・熱中症の予防、食生活の改善、学習環境整備、食育、換気、姿勢改善などについて、ワンポイントアドバイスを行い、健康に対する意識の涵養につなげた。 現在 8 回実施済。あと2回3学期中に実施予定。
		・簡単なトレーニングを紹介し、学校生活の中で大きな怪我や事故を防ぐ。 【基礎体力向上のための取組 年3回】	A			・ケガ防止プロジェクトの KUMIZAP を 1 学期 1 回（球技大会前）、2 学期 2 回（体育祭前、冬休み前）に実施した。 ・体育科での指導に加えてケガの防止の啓発を目的に実施し、球技大会・体育祭では共に大きな怪我はなかった。
		・食生活に関心を持たせ、正しい知識と、よりよい食を選ぶ力を身に付けさせる。 【お弁当 DAY の実施 年3回】	A			・学年ごとにテーマを決めて、自分でお弁当を作ることで、食に関心を持たせるきっかけに作りになった。 ・生徒によって家庭環境が異なるため実施方法や内容を再検討する必要がある。

	組織的な指導体制構築と指導力の向上	- 定期的な会議の実施による生徒の情報の共有。 【教育相談会議・特別支援教育推進会議の実施 年6回】	A	B	- 定期考査の2週間前に定例開催し、現在5回実施済。 1年生の学年末考査前に第6回を実施予定。 - 会議のまとめを毎回職員会議で共有した。 - 定期考査前に生徒が自主的に始めた「勉強部」への支援についても具体的な方法を相談することができた。
		- 自分自身を理解させ、社会性を身に付けさせる。 【自己理解チェックリストの作成と実施】	B		- 自己理解チェックを実施し、結果を職員会議で共有することができた。 2回（1. 2学期）実施済。3学期にも実施予定。 - 実施後の生徒へのフィードバックの仕方や分析の方法などを改善する必要がある。
人権教育	教員の人権意識の向上	- 教職員研修など通じて、多様性を尊重した共生社会における高い人権意識を養う。 【教職員研修：1回実施】	B	B	- 京都府教育委員会が作成した同和問題を扱った動画を研修として全教員が視聴した。 - 多文化共生に関する教職員研修を外部講師を招いて実施した。 - 教職員の人権意識の向上に向けて、継続して研修の機会が必要である。
	生徒の人権意識の向上	- 自己有用感・コミュニケーション能力、基本的人権、主体的に生きる社会人に向けての人権学習を実施し、互いを尊重し、いじめを許さない雰囲気を作り、安心して通える学校作りをする。 【各学年で年1回人権学習HR等を実施】	B		- 障害者問題や様々な人権問題について講義や講演会を行った。 1年生 3学期に予定 2年生 1回 3年生 1回 - 主権者教育として、裁判の傍聴、18歳成人としての権利・義務の学習を行った。 - 沖縄での修学旅行を踏まえての平和学習を行った。

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 に よ る 評 価	・地域連携が進んでいるところが多くあり、今後も継続して欲しい。 ・評価が低くなっている項目については、改善策を話し合い、継続して取り組んで欲しい。 ・地域に対する想いの強い生徒を育てている。 ・校則について生徒が主体的に考える取組は中学校でも始まっている。今後も重要な取組になっていく。 ・生徒会活動で、中学時代には考えられない生徒が活躍している。とても嬉しく思っている。 ・学校評価アンケートで、生徒保護者等の満足度を聞く項目があるが、それに加えて推奨度の項目があるとより良い。 ・地域に根差した活動ができていて、それが生徒の進路実現にもつながっている。 ・学舎間の連携の進化がさらに期待される。組織マネジメントの視点でお互いの良いやり方の共有があれば良い。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	・働き方改革は、各教員の業務の平準化が必要で、一部の教員に負担が増えすぎないように調整を行う。 ・生徒が前向きに授業に向かえるように、授業改善を継続する。内容を充実させる。 ・生徒募集に向けて、本学舎の特色について、生徒保護者や中学校に向けて更に発信していく。 ・生徒指導において身だしなみを中心に粘り強く改善に努める。